



図書館だより 5月

四日市メリノール学院図書館

先日、創立60周年の学校行事がありました。新入生の中には、記念ミサを経験して本校がカトリック校なのだ、ということ^{あらた}を改めて実感した人もあると思います。祈りと共に60周年を迎えたメリノール、これからのメリノールの歴史をみなさんが作っていきましょう。

最近、高3生だけでなく、高1, 2年生でも進路に関することを調べに来る人がいます。大学や学部について調べると共に、今のうちから本を読むクセ（長文を読むクセ）を付けておくこと^{すす}をお勧めします。受験する頃には「読解力」^{どっかいりょく}がしっかり身についていますよ。

「どんな本を読んだら良いのか」「どんなものから読み始めたら良いか」迷っている人は、一度司書に相談してくださいね。

今月のおススメ

今回紹介するのは、^{たかく ふさい かか}多額の負債を抱えた病院再建の様子を描いた小説です。そして、この小説のモデルは、^{しましみんびょういん}三重県の志摩市民病院です。作者の^{いがらし}五十嵐さんは、この小説を執筆するにあたり「志摩市で1カ月暮らし、志摩市民病院の実態を取材した」と^{しつびつ}くあとがき>に書いています。1カ月間、毎日病院に通い100人以上（職員、ボランティア、市役所の担当者など）にインタビューをしたそうです。

物語の主人公は^{じゃっかん}若干34歳の医師、^{はやみりゅうた}速水隆太。次々と同僚が辞めていく中、彼が院長になり病院再建^{ほんそう}に奔走します。高齢者が多い地域で、^{ちいきりょう}地域医療を進めていくことと経営のバランスをとることの^{むずか}難しさが読み取れます。様々な困難の中でも「すべての患者を断らない」という医者としての信念に胸を打たれます。また、そんな彼を支え、応援してくれる人たちがいるからこそ、^{つら}どんなに辛くても彼は^{がんば}頑張れるのだらうと思わせてくれます。ぜひ一度、読んでみてください。

^{きせき ま}
「奇跡を蒔くひと」

^{いがらし たかひさ}
五十嵐 貴久/著 光文社/刊